

(総括評価表〔付表:戦略3〕)

取組みの方向性	活力を創る	戦 略	【戦略3】地域力を高める ～政令指定都市以外の地域振興を重点的に進めます～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				7	17	76事業	78事業	9,423,617千円	13,100,088千円

1 戦略の内容

**(1)現状と課題**

過疎地域等では、人口減少や少子高齢化、地域経済の低迷などにより、コミュニティの維持さえ困難な状況があります。このような中、魅力ある地域資源を生かした交流人口の拡大や、ICT(情報通信技術)の活用による地域課題の解決等が求められています。

また、政令指定都市誕生による一極集中への不安解消に向け、新幹線開業効果を県内各地域に波及させるとともに、政令指定都市以外の地域振興を重点化し、頑張る地域への積極的な支援を行うことで、県内各地域の活性化を図っていく必要があります。

**(2)概 要**

九州新幹線の全線開業や政令指定都市誕生の効果を各地域に波及させていくとともに、熊本都市圏への人口や経済の一極集中などの不安を払拭し、県内どの地域にあっても、誇りに満ちた暮らしが送れるよう、政令指定都市以外の地域振興に重点的に取り組みます。

また、人口減少や高齢化が急速に進み、コミュニティの維持が難しくなっている中山間地域等について、それぞれの地域の現状やニーズを踏まえ、きめ細やかなサポートを強化するとともに、魅力ある資源などを生かしたコミュニティビジネスや都市との新たな交流を生み出します。

**(3)体 系** (単位:千円)

① 交流地域振興による	◆新幹線効果を各地域へ広める〔施策17〕 ～新幹線効果の波及による地域振興～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	9事業	1,006,404	11事業	1,441,680
	◆都市との新たな交流を生み出す〔施策18〕 ～地域の魅力ある資源を生かした新たな交流の創造～ 【担当部局:企画振興部・農林水産部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	13事業	676,588	13事業	1,876,074
	◆スポーツを振興する〔施策19〕 ～ロアッソ熊本などを生かしたスポーツによる地域活性化～ 【担当部局:企画振興部・教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	7事業	38,417	8事業	58,128
	◆地域のチャレンジを応援する〔施策20〕 ～地域づくりへの挑戦に対する支援～ 【担当部局:総務部・企画振興部・農林水産部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	8事業	858,402	7事業	1,178,659
	◆県南を活性化〔施策21〕 ～県南振興、「水俣・芦北地域振興計画」及び「ふるさと五木村づくり計画」の取り組み強化～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部・農林水産部・土木部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	30事業	6,211,185	30事業	7,423,365
② 地域の現状やニーズを踏まえた	◆地域の生活を支える〔施策22〕 ～買い物弱者の解消と地域の移動手段の確保～ 【担当部局:企画振興部・商工観光労働部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	8事業	626,838	8事業	1,106,984
	◆情報通信技術を活用する〔施策23〕 ～情報通信技術(ICT)を活用した地域活性化～ 【担当部局:企画振興部・農林水産部】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	1事業	5,783	1事業	15,198

2 戦略の評価

**(1)指標の推移・分析**

指標〔単位〕	策定時	H24 〔達成度・増減〕	H25 〔達成度・増減〕	H26 〔達成度・増減〕	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
① 県内の主要な都市農村交流促進施設の年間来訪者数〔万人〕	531 (H22)	567 <96.1%>			590 [万人/年(単年)]	県内の主要交流施設(39箇所)の来訪者数は前年度対比で0.3%の増加にとどまった。阿蘇地方を中心とした大雨による災害の影響があったものと思われる。
② 新幹線利用者数(新幹線4駅の乗降客数)〔万人〕	637 (推計値)	657 <98.1%>			670 [万人/年(単年)]	【推計値】 新幹線4駅の利用者はいずれも増加し、全体の利用者は対前年比103.1%となった。
③ 【補】ロアッソ熊本ホームゲーム1試合平均入場者数〔人〕	6,928 (H23)	5,855 <84.5%>			前年度の平均入場者数を上回る〔人(単年)]	試合開催日が金・土曜日から原則日曜日の夜にシフトしたことや、H23年度はロアッソ熊本の認知度向上のために多数の招待(無料)を行ったが、H24年度からは有料入場者数の増加の取組みに重点を置いたことなどの影響が推測される。(※有料入場者率:48%(H23)→57%(H24))
④ 【補】地域づくりチャレンジ推進事業(4分野)の実施件数〔件〕	74 (H23)	52 <65.0%>			80~100 [件/年(単年)]	地域づくりは合意形成に時間を要することや、市町村でもH23年度に補助を受けた新規事業を継続しながら、H24年度に新たな事業を実施する必要があったことなどの影響が推測される。

**(2)平成24年度の主な成果**

- おもてなし創造支援事業での13件の取組みに対する助成により、各地域のおもてなしの機運を醸成。
- 6種類の観光周遊バスを整備し、旅行商品として全国販売。
- 新幹線各駅から各地域への2次アクセス、3次アクセスについて、関係者が連携した取組みが進展。
- 多彩で魅力ある品目の掘り起こしと、実需者を対象とした売込み、新エリアでの流通ルートの開拓により、少量こだわりの県産農林水産物等の販売が拡大。
- 支援を通じた古民家活用の農家民宿開業や古蔵再生の多目的交流館開設。
- 「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成支援で、H24年度末までに累計64クラブ設立、7クラブが設立準備中。
- 県民とロアッソ熊本の交流を図る機会をさらに増やすため、H23年度末整備のスポーツ交流館(県民運動公園内)でサッカー教室及び交流会を5回開催し、202名参加。
- 「政令指定都市誕生後の県内各地域の将来像」で示した6地域のうち、スクラムチャレンジの申請事業を全て採択。
- H25年4月から県内4カ所〔県北、県央、県南、天草〕に広域本部を設置。政令指定都市以外の地域振興など広域的な取組みの推進や、機動性及び専門性の向上を図る体制を整備。
- 八代港の水深14m岸壁第1バース及び泊地整備が完成。
- 「水俣・芦北地域雇用創造協議会」を中心とした取組みを展開し、148人の新たな雇用創出。
- 五木村において、年間の観光客総数15万人を達成。宮原五木線の頭地大橋を含む区間が供用開始となり、住民の利便性が向上。
- 商店街組織が病院内に売店を設置・運営する事業や宅配サービスに対し支援を行い、新たな買物の場を提供し、地域の買い物弱者(約40世帯)を支援。
- 市町村が取り組むバス路線の再編、コミュニティバス、乗合タクシーへの転換等をサポートし、利用者の利便性向上が進展。
- H24.8月に阿蘇くまもと空港到着口、JR肥後大津駅隣接の大津町ビジターセンターに交通情報等を表示するデジタルサイネージ(電子掲示板)を設置し、空港利用者の利便性が向上。

**(3)平成25年度の推進方針・推進状況**

- おもてなしの向上に向けた事業者の取組みを支援。
- 本県と隣県を結ぶ観光アクセスバス(雲仙・長崎オーシャン観光バス)の継続運行。九州新幹線を念頭に置いた観光周遊ルートを開発。
- 開拓した流通ルートで、くまもとふるさと野菜等新たな品目の掘り起こしと、継続的な売込み。
- 県HP「ふるさと応援ねっと」のリニューアル、タイムリーな県内の都市農村交流に関する情報の収集と発信により、交流人口を拡大。
- 「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成を引き続き支援。
- 県民がロアッソ熊本を身近に感じることができるよう、地域で開催されるサッカー教室やイベント等へのロアッソ熊本の選手派遣に係る費用等を助成。
- 「将来像」に掲げた主な取組みの方向性を踏まえた6地域の取組みを支援。
- 広域本部体制の定着化や、地域振興局管内を超えた広域的な地域振興等を推進。
- 「第33回全国豊かな海づくり大会」を開催。
- 八代港において、水深14m岸壁の第1バース関連航路や浚渫土砂処分場等の整備を促進。
- 水俣・芦北地域の雇用創出に向けた取組みを継続。
- 五木村において、移住・定住促進に向けた対策を開始。水没予定地の利活用に向けて多目的広場の整備等を推進。
- 移動販売や宅配等の買い物環境整備の取組みに対する支援。
- バス路線の運行維持に対する支援、市町村が取り組む路線バスの再編、コミュニティバス、乗合タクシーの導入等に対する支援を実施。
- スマートひかりタウン熊本を推進し、中山間地域等における学習機会の創出や、NTT西日本との包括連携協定に基づく「交通・観光・空港・中心市街地活性化」、「高齢者対策・健康づくり」等のテーマに関するICTを利活用した取組みを展開。

**(4)戦略を推進する上での課題**

- 本県が「選ばれる観光地」となるための、観光事業者等のみならず県民総参加によるおもてなしの向上。
- 観光ルートの確立に向けた観光資源の更なる発掘・磨き上げ。
- 県産農林水産物の継続的な取引及び販路拡大、ICT等の活用。
- “くまもとジビエ”の商品としての品質の向上と安定。
- 都市と農村の交流人口の拡大に向けた取組みの加速化。
- 「総合型地域スポーツクラブ」の指導者不足や不安定な財政基盤等の問題への対応。
- 「クラブライセンス」の交付を受けるため、㈱アスリートクラブ熊本が抱える約7,100万円の債務超過の解消。
- 「将来像」を実現するため、県と市町村等が同じ方向に向かった取組みの推進。合意形成に時間を要する地域づくりの取組み等への支援のあり方の検討。
- 広域本部内の各地域振興局間や広域本部間の連携強化。
- 熊本らしい海づくり大会に向けた熊本の魅力あふれる演出と大会の認知度向上。
- 水俣・芦北地域の産業振興と雇用創造を地元で根付いた取組みに発展させていくための取組みの展開。
- 五木村において、過疎化、高齢化が依然として進んでいるため、移住・定住促進や高齢者への生活支援等の施策が必要。
- 地域一体となった連携体制の構築と事業継続のための一定の収益確保の仕組みづくり。
- 燃料費の高騰等によりバス会社の赤字が増加傾向にある中での生活交通の維持確保。
- 地域におけるICT利活用ニーズの把握やICT利活用モデルの県内各地域への普及・推進。

**(5)今後の方向性**

- 県民総参加によるおもてなしの心の普及・啓発が進むことで、各地域が連携した自発的なおもてなし活動が定着する取組みを推進。
- 県内各地域における交通ネットワークを充実。
- こだわりや特徴がある県産農林水産物の継続的な取引及び販路拡大。
- “くまもとジビエ”を新たに特産品化。
- 都市と農山漁村との交流をさらに拡大し、農山漁村の良さをPR。
- 「総合型クラブ」の環境づくりを担当する人材を全市町村に毎年一人ずつ、4年間で全県下に180人養成。
- 1試合あたりの平均観客動員数7,000人以上の目標達成とロアッソ熊本の運営の安定化。
- 「将来像」を実現する取組みを着実に展開。
- 広域本部が各地域振興局の取組みを総合調整するとともに、広域本部での集中処理を拡大。
- 本県の特徴ある水産物の魅力と水俣の海の再生の情報発信。
- 八代港の水深14m岸壁及び関連施設の整備促進、大型船舶による効率的かつ効果的な物流体制の確立。
- 水俣・芦北地域が一体となった雇用創造の取組み等を展開。
- 五木村において、観光産業・農林業の振興、移住・定住の促進、高齢者の生活支援等を推進。
- 買い物弱者問題等の社会的課題の解決に向けたソーシャルビジネスの立ち上げを展開。
- バス路線の再編等により、利用者の利便性が向上するとともに、市町村の財政負担が現在と同程度に抑えられるよう取組みを展開。
- 事業者等と連携し、ICTを利活用しながら地域のさまざまな課題に迅速かつ適切に対応。